

戦略研究学会年報「戦略研究」第6号
20世紀の戦争と平和

共通論題

【論文】

20世紀の戦争と平和	秦 郁彦	5
戦争とは何か——戦略研究からの視点	コリン・グレイ (奥山真司訳)	15
戦略はなぜ難しいのか	コリン・グレイ (奥山真司訳)	23
総力戦の登場とその発展——戦争と社会の関係を中心に	石津 朋之	33
第二次世界大戦——アジアの戦争とヨーロッパの戦争	戸部 良一	47
冷戦と戦略の変容——20世紀後半の戦略思考と戦略環境	赤木 完爾	55
「新しい戦争」の「新しい戦略」	加藤 朗	65

自由論題

【論文】

日本企業のグローバル化戦略 ——ビジネスモデルのコンテクストイノベーション	原田 保	79
ボーン・アゲイン・グローバル企業の事業転換戦略	高井 透	97
比較戦略論の可能性に関する考察	間中 範雄	119
20世紀のウォーゲーミング (図上演習の方法論) に関する歴史	蔵原 大	135
Turkey's Policy and Strategy in the Middle East since the Outbreak of the Iraq War in 2003	Hisae Nakanishi	149

ヒストリオグラフィー

最近の日露戦争研究——100周年を振り返って	稲葉 千晴	167
エルンスト・ノルテ研究のために ——イデオロギーの内戦としての20世紀	新谷 卓	199

書評論文

- 日本における情報史研究の確立へ向けて 奥田 泰広 221
セオドア・ルーズベルトの国家戦略——警察力概念の検討から 三島武之介 235

書評

General Rupert Smith, *The Utility of Force: The Art of War in the Modern World* (ルパート・スミス『軍事力の役割——現代世界の戦争学』) 山口 昇 249

ヴォルフガング・シヴェルプシュ著、福本義憲・高本教之・白木和美訳『敗北の文化——敗戦トラウマ・回復・再生』 中島 浩貴 255

吉田裕・森茂樹『戦争の日本史23——アジア・太平洋戦争』 山本 智之 261

文献紹介

■経営戦略・環境戦略

ゲイリー・ハメル、ビル・ブリーン著、藤井清美訳『経営の未来——マネジメントをイノベーションせよ』(山賀康弘) 269

林偉史、關智一、坂本義和編著『経営戦略と競争優位』(増本貴士) 270

ロバート・B・チャルディーニ著、社会行動研究会訳『影響力の武器(第2版)』(片岡裕司) 271

ドン・コーエン、ローレンス・プルサック著、沢崎冬日訳『人と人の「つながり」に投資する企業——ソーシャル・キャピタルが信頼を育む』(山賀康弘) 272

藤原治著『広告会社は変わるか——マスメディア依存体質からの脱却シナリオ』(増本貴士) 273

金亨朱著『小売企業のグローバル戦略と移転——小売ノウハウの海外移転の理論と実証』(石川和男) 275

ジョン・W・ムリンズ著、秦孝昭・出口彰浩・兎耳山晋訳『ビジネスロードテスト——新規事業を成功に導く7つの条件』(間中範雄) 276

星野妙子編『ラテンアメリカ新一次産品輸出経済論——構造と戦略』(丸谷雄一郎) 278

ミランダ・A・シュラーズ著、長尾伸一・長岡延孝監訳『地球環境問題の比較政治学——日本・ドイツ・アメリカ』(高峰康修) 279

小林由美著『超・格差社会アメリカの真実』(堅田義明) 280

ジェラード・デランティ著、山之内靖・伊藤茂訳『コミュニティ——グローバル化と社会理論の変容』(片岡裕司) 282

水野和夫著『人々はなぜ、グローバル経済の本質を見誤るのか』(間中範雄) 283

■現代戦略・国際政治

石津朋之著『リデルハートとリベラルな戦争観』(源田 孝) 284

- Kenneth N. Waltz and Robert J. Art, eds., *The Use of Force: Military Power and International Politics* (6th ed.)『軍事力の用途——武力と国際政治(第6版)』(奥山真司) 286
- Hugh Smith, *On Clausewitz: A Study of Military and Political Ideas*『クラウゼヴィッツ論——軍事・政治思想の研究』(永末 聡) 287
- Isabelle Duyvensteyn and Jan Angstrom, eds. *Rethinking the Nature of War*『戦争の本質再考』(川村康之) 289
- Colin S. Gray, *Fighting Talk: Forty Maxims on War, Peace and Strategy*『ファイティング・トーク——戦争、平和、戦略に関する40の原則』(フランク・ホフマン、永末聡訳) 290
- ポール・ボースト著、山形浩生訳『戦争の経済学』(吉本隆昭) 292
- 高坂正堯著『海洋国家日本の構想』(森本清二郎) 293
- Richard J. Samuels, *Securing Japan: Tokyo's Grand Strategy and the Future of East Asia*『日本の安全保障——東京の大戦略と東アジアの将来』(中井 暁) 295
- G・ジョン・アイケンベリー著、鈴木康雄訳『アフター・ヴィクトリー——戦後構築の論理と行動』(源田 孝) 296
- Rajan Menon, *The End of Alliance*『同盟の終焉』(小川健一) 297
- Adam N. Stulberg and Michael D. Salomone with Austin G. Long, *Managing Defense Transformation: Agency, Culture and Service Change*『国防変革の管理——エージェンシー、文化、軍の変容』(塚本勝也) 299
- Tomas K. Adams, *The Army After Next: The First Postindustrial Army*『次々世代の米陸軍——最初の脱産業化陸軍』(塚本勝也) 300
- Rupert Smith, *The Utility of Force: The Art of War in the Modern World*『軍事組織の有用性——現代世界における戦争のアート』(奥山真司) 301
- L・ダイヤモンド、M・F・プラットナー編、中道寿・監訳『シベリアン・コントロールとデモクラシー』(真田尚剛) 303
- 小谷賢編著『世界のインテリジェンス——21世紀の情報戦争を読む』(三島武之介) 304
- Peter Gill and Mark Phythian, *Intelligence in the Insecure World*『不安定な世界のインテリジェンス』(金 自成) 305
- R. Gerald Hughes, Peter Jackson and Len Scott, eds. *Exploring Intelligence Archives: enquiries into the secret state*『インテリジェンス研究の手引き——秘密国家への探究』(橋本 力) 307
- Thomas R. Mockaitis, *The "New" Terrorism: Myth and Reality*『新たなるテロリズム? ——その神話と現実』(松原治吉郎) 308
- Peter Hennessy, eds. *The New Protective State: Government, Intelligence and Terrorism*『超保護国家——政府、インテリジェンス、テロリズム』(橋本 力) 310
- Howard M. Hensel, ed. *The Legitimate Use of Military Force: The Just War Tradition and the Customary Law of Armed Conflict*『軍事力の合法的使用——伝統的正戦論と武力紛争に関する慣習法』(森本清二郎) 311
- 栗林忠男、秋山昌廣編著『海の国際秩序と海洋政策』(高峰康修) 312
- Miles Kahler and Barbara F. Walter, eds. *Territoriality and Conflict in an Era of Globalization*『グローバル化の時代における領土意識と紛争』(高野 一郎) 313
- Robert H. Bates, *When Things Fell Apart: State Failure in Late-Century Africa*『国家が破綻するとき——20世紀後期のアフリカにおける国家破綻』(大槻佑子) 314
- 西村汎子編『戦の中の女たち』(伊藤智央) 316

デーヴ・グロスマン、ローレン・W・クリステンセン著、安原和見訳『「戦争」の心理学——人間における戦闘のメカニズム』(吉本隆昭) 317
長谷川恵洋著『英語戦争——アメリカ主導型英語と日本主導型英語の戦い』(米田富彦) 318
Robert E. Goodin and Charles Tilly, eds. *The Oxford Handbook of Contextual Political Analysis*. 『コンテクストによる政治分析のためのオックスフォードハンドブック』(奥山真司) 320

■歴史・戦争史

畑野勇著『近代日本の軍産学複合体——海軍・重工業界・大学』(末松将隆) 321
黒野耐著『帝国陸軍の<改革と抵抗>』(山本智之) 322
波多野澄雄、戸部良一編『日中戦争の軍事的展開』(永末 聡) 323
前田哲男著『戦略爆撃の思想——ゲルニカ、重慶、広島[新訂版]』(永末 聡) 324
栗原浩英著『コミンテルン・システムとインドシナ共産党』(佐々木太郎) 325
張紹鐸著『国連中国代表権問題をめぐる国際関係(1961-1971)』(永田伸吾) 327
長谷川博隆著『ハンニバル——地中海世界の覇権をかけて』(米田富彦) 328
Christopher D Hall, *Wellington's Navy: Sea Power and the Peninsular War, 1807-1814* 『ウエリントンの海軍——シー・パワーと半島戦争(1807-1814年)』(山根元子) 329
クラウゼヴィッツ、金森誠也訳『クラウゼヴィッツのナポレオン戦争従軍記』(中島浩貴) 330
クラウゼヴィッツ、金森誠也訳『クラウゼヴィッツのナポレオン戦争従軍記』(葛原和三) 331
Antony Wynn, *Persia in the Great Game: Sir Percy Sykes: Explorer, Consul, Soldier, Spy* 『グレートゲームのなかのペルシア——探検家、領事、兵士、そしてスパイとしてのサー・パーシー・サイクス』(奥田泰広) 332
Oliver Stein, *Die deutsche Heeresr stungspolitik 1890-1914: Das Milit r und der Primat der Politik* 『ドイツの陸軍軍備政策 1890-1914年——軍部と内政の優位』(中島浩貴) 333
デイヴィッド・フロムキン著『平和を破滅させた和平——中東問題の始まり[1914~1922年]』(上・下)(奥田泰広) 334
John Gooch, *Mussolini and His Generals: The Armed Forces and Fascist Foreign Policy, 1922-1940* 『ムッソリーニとその将軍たち——軍とファシストの外交政策, 1922-1940年』(三浦瑠麗) 335
アンドレ・モーロワ著、高野彌一郎訳、中西輝政解説『フランス敗れたり』(葛原和三) 337
David Reynolds, *In Command of History. Churchill Fighting and Writing the Second World War* 『歴史の支配者——第二次大戦を闘い、そして描いたチャーチル』(奥田泰広) 338
クラウス・ナウマン著、日本クラウゼヴィッツ学会訳『平和はまだ達成されていない——ナウマン大将回顧録』(川村康之) 339
Stephen Badsey, Rob Havers, and Mark Grove, eds. *The Falklands Conflict Twenty Years On: Lessons for the Future* 『フォークランド紛争から20年——将来への教訓』(小川健一) 341
田中利幸著『空の戦争史』(加藤 朗) 342

編集後記

年報『戦略研究』投稿要領

戦略研究会入会案内

執筆者一覧